

No	テーマ	学修到達目標	内容	課題
第1講	漢字仮名交じりの書の発生と展開	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書の発生と展開について、漢字とかなの調和の観点を踏まえて、説明することができる。 漢字仮名交じりの書のさまざまな書式について、その具体例を挙げて、説明することができる。 	(1)漢字仮名交じりの書の発生 (2)漢字とかなの調和 (3)漢字仮名交じりの書と書式	(1)鎌倉時代の絵巻詞書に見られる漢字仮名交じりの書について、その特徴をまとめなさい。 (2)近世初期の色紙や巻物に見られる漢字仮名交じりの書について、その特徴をまとめなさい。
第2講	手紙の歴史と日本語の表記	<ul style="list-style-type: none"> 日本における手紙の歴史について、その概略を説明することができる。 候文の漢語的表現に概ね習熟し、その活字化された文献について、読解を試みることができる。 	(1)日本における手紙の歴史 (2)表記法としての候文	(1)藤原佐理《離洛帖》の手紙としての魅力について考察しなさい。 (2)候文の漢語的表現について、謙讓などの敬語的な側面から、その特徴をまとめなさい。
第3講	手紙の書式とその書き方	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の目的とそれに応じた書式について、その具体例を挙げて、説明することができる。 巻紙による手紙の書き方について、その概略を説明することができる。 	(1)手紙の目的と書式 (2)巻紙による手紙の書き方	(1)お見舞・お礼などの手紙の目的を明確にして、かつ具体的な宛先を想定して、巻紙による手紙を書きなさい。
第4講	手紙の読解と鑑賞—安田靫彦—	<ul style="list-style-type: none"> 安田靫彦が良寛の書の紹介において果たした役割について、年譜などの事歴にもとづいて説明することができる。 	(1)良寛讃仰 (2)正しさと確かさと	(1)墨法の効果などの点から、安田靫彦の書の特質について分析し、まとめなさい。
第5講	手紙の読解と鑑賞—土田麦僊—	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の内容と書きぶりから、筆者の人間性について想像し、説明することができる。 	(1)平明の天才 (2)穏やかさへのあこがれ	(1)安田靫彦の書と土田麦僊の書とを比較して、その共通点・相違点

				について分析し、まとめなさい。
第6講	手紙の読解と鑑賞—鍋木清方—	・手紙の読解を通じて、戦時における芸術、あるいは芸術家の役割についての、鍋木清方の考えを推察し、説明することができる。	(1)芸術の持つ役割 (2)是非もなきこと	(1)日本画家の手紙の書の特徴について、この講義で取り扱った3人の書を比較しながら、考察しなさい。
第7講	手紙の読解と鑑賞—黒田清輝—	・黒田清輝の手紙の書の特徴について、用筆や運筆の観点から、説明することができる。	(1)明治の洋画壇 (2)本文と追而書 (3)速筆と切り返し	(1)候文という文体のもつ特徴について、くり返し音読してから、話し合いなさい。 (2)本文と追而書の部分の内容を読み比べて、追而書の役割について考察しなさい。
第8講	手紙の読解と鑑賞—小出楯重—	・手紙の内容と書きぶりから、筆者と宛名の人物との人間関係について想像し、説明することができる。	(1)人と人をつなぐもの (2)書の線と絵画の線	(1)小出楯重の書の魅力について、その画と見比べながら、話し合いなさい。
第9講	手紙の読解と鑑賞—藤田嗣治—	・手紙の読解を通じて、藤田嗣治が作戦記録画《アッツ島玉砕》を制作し、発表した事由について、説明することができる。	(1)作戦記録画 (2)彩管報国	(1)歴史的事実を明らかにするうえで、資料としての手紙が果たす役割について、考察しなさい。
第10講	手紙の読解と鑑賞—伊藤左千夫—	・手紙の内容と書きぶりから、筆者の人間性について想像し、説明することができる。	(1)洒々落々たる味 (2)画に題する歌	(1)伊藤左千夫の書の魅力について、その詠歌や文章を参考にしながら、話し合いなさい。
第11講	手紙の読解と鑑賞—長塚節—	・手紙の内容と書きぶりから、筆者の人間性について想像し、説明することができる。	(1)澄明さ・濁りのなさ (2)結核という病	(1)長塚節が自分の病気とどのように向き合ったか、その詠歌を参考にしながら、考察しなさい。

第12講	手紙の読解と鑑賞—斎藤茂吉—	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙の内容と書きぶりから、筆者の人間性について想像し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)長塚節と茂吉 (2)粘着気質の人 	<ul style="list-style-type: none"> (1)斎藤茂吉の編集者としての仕事ぶりについて、考えたことをまとめなさい。 (2)いわゆる「アララギ派」の歌人たちの系譜をたどりながら、歌人と書との関わりについて、考察しなさい。
第13講	手紙の読解と鑑賞—萩原朔太郎—	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙の内容と書きぶりから、筆者の人間性について想像し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)昭和十三年六月六日 (2)表記への「こだわり」 	<ul style="list-style-type: none"> (1)手紙の内容と筆者の年譜とを照合しながら、手紙の書かれた時日を特定していく過程について、まとめなさい。
第14講	手紙の読解と鑑賞—高村光太郎—	<ul style="list-style-type: none"> ・高村光太郎の手紙の書における書きぶりの変遷について、様式によりその時期を分けて、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)光太郎書の変遷 (2)「造形」と「試み」 	<ul style="list-style-type: none"> (1)葉書という書式の特徴について、高村光太郎の場合を具体例として、考察しなさい。
第15講	手紙の書美と制作への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙の魅力やその内容と書きぶりとの関わりについて、この講義の内容を踏まえて、説明することができる。 ・手紙における書表現を漢字仮名交じりの書の制作に活かす方法について、この講義の内容を踏まえて、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)気息の表現—新鮮さ— (2)初心の表現—純真さ— (3)率意の表現—自然さ— (4)手紙に学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> (1)手紙を書くことの意義について、自分が考えていることをまとめた上で、話し合いなさい。